

自動運転実用化に向けた技術開発／法規制の動向と課題

日時 2015年7月10日(金) 13:00~16:30 **主催** S&T出版株式会社

会場 連合会館 5階 502会議室 東京都千代田区神田駿河台3-2-11

受講料 43,200円 Eメール案内会員価格 41,000円 ※資料代を含む(税込)

<1名様分の受講料で2名様まで受講できます。>
 ※2名様ご参加は同一会社・法人からの同時申込に限りです。
 ※3名様以上のご参加は、追加1名様あたり10,800円OFFになります。
 Eメール案内登録(無料)をしていただいた方にはEメール案内会員価格を適用いたします。

第1部 車載カメラ、センサ、通信技術を用いた運転支援から自動運転の現状と将来展望 [13:00~14:00]

日産自動車(株) R&Dエンジニアリング・マネージメント本部 グローバル技術渉外部 技術顧問 福島 正夫 氏

人と道路とクルマの間の情報のやりとりや、クルマがセンサーなどで外界を認識することで、交通事故や渋滞緩和を支援する高度運転支援やその先の自動運転に注目が集まっています。すでに多くの技術が実用化されるなど、実用化に向けた開発の段階にあります。ここではこれらの概要と今後の動向についてご紹介します。

1. 背景
 - 1-1 モビリティの負遺産の解消
 - 1-2 ITSの運転支援とは?
2. 様々な運転支援システム
 - 2-1 縦方向の支援
 - 2-2 横方向の支援
 - 2-3 その他の運転支援
3. 見えない相手への対応(V2X)
4. 自動運転
 - 4-1 自動運転の定義
 - 4-2 自動運転の検討例
 - 4-3 自動運転に関する国の動き
 - 4-4 自動運転に必要なセンサー
 - 4-5 自動運転に関わる課題
5. まとめ

第2部 車載カメラモジュールの市場・最新技術動向と自動運転に求められる機能・今後の課題 [14:15~15:15]

共創企画 代表取締役 博則 氏

欧州のTeam Regulation(北米のNHTSAの成立)によりカメラモジュール搭載により自動車の安全性能を高める機能が世界的に高まってきている。世界中に先駆け自動車の安全性を向上させた日本のASV(先進安全自動車)構想が派生した「レゾルカメ」の有効性が評価され、ADASの普及は世界的に急務となっている。このように、カメラモジュールの果たすべき重要性は以前より高まっているのである。さらに、その性能をより高度化するため、カメラモジュールだけでなくさまざまなセンサーの組み合わせによりADASをより高性能にする「センサーフュージョン」が急務となっている。そこで、「ぶつからない車」、「繋がっている車」の行く先には自動運転の実現が見えてきている。本講座では、このような自動車業界の変化の中、それに最適なカメラモジュールの機能や仕様について詳説する。

1. スマホが確立したCloud Computing環境に取り込まれる自動車
 - 1-1 スマホの歴史とCloud Computing環境の確立
 - 1-2 スマホから自動車に移行しつつあるOSの覇権争い
 - 1-3 Cloud Computing環境確立により、新たな世代に突入した「Telematics」
 - 1-4 Cloud Computing環境への適合、次世代Telematicsに適合した「Infotainment」車載機器
2. 車載カメラモジュールの動向
 - 2-1 ASV(先進安全自動車)構想実現のため提案された多くのカメラモジュール
 - 2-2 各国の安全自動車に向けた法制化進展により高まる車載カメラの世界的本格搭載
 - 2-3 世界的に急拡大するADAS(先進運転者支援システム)用カメラ機能
 - 2-4 ITS、プローブデータなどのBig Data取り込みに重要な役割を果たすカメラ機能
 - 2-5 「ぶつからない車」、「いつも“繋がっている車”」の実現により現実味が高まっている自動運転車
3. 自動車用カメラモジュールに必要な性能
 - 3-1 暗視感度を向上させる自動車用高感度Image Sensor
 - 3-2 明暗差の大きな環境に対応したHDR(High Dynamic Range)機能
 - 3-3 リフローカメラモジュール採用による低コスト化の実現
 - 3-4 IoT環境で「汎用カメラモジュール」となるリフローカメラモジュール
4. まとめ

第3部 車両の自動運転をめぐる国内外法的課題 [15:30~16:30]

弁護士法人リバーシティ法律事務所 弁護士・弁理士・ニューヨーク州弁護士 南部 朋子 氏

日本・米国・欧州各国の企業を中心に車両の自動運転技術の開発が進んでいるが、法整備の面では、人による運転を想定した現行法との整合性や事故時の責任の所在等、課題は多い。本講演では、各国政府等の政策に触れつつ、自動運転の法的課題について解説する。

1. 自動運転自動車走行システムとは
 2. 公道での車両の走行についての法規制 (ア) 道路交通法 (イ) 道路運送車両法 (ウ) 新しいタイプの車両につき道路交通法等の規制が問題となったケース (エ) 公道での自動運転についての国際的な規制(日本) (オ) 自動運転の制度面での課題
 3. 自動運転に関する法規制(米国)
4. 自動運転に関する法規制(欧州)
 5. 自動運転車両による事故の責任(日本の場合) (ア) 原則論 (イ) 被害者保護のための例外その1【自動車損害賠償保障法】 (ウ) 被害者保護のための例外その2【製造物責任法】 (エ) 自動化レベルに応じた検討 (オ) メーカー側の責任を制限する主張として考えられるもの

セミナー申込用紙 セミナー名: ST150710 (自動運転実用化に向けた技術開発／法規制の動向と課題)

会社名 団体名		※左記ご記入の上、 FAX 03-3261-0238 までお申込みください。	
部署・役職		■お申込み方法 必要事項をご記入の上、FAXでお申込みください。または当社ホームページからお申し込みください。	
ふりがな		■受付完了のご連絡 受付完了後、3営業日以内に請求書、受講券、会場案内図を郵送いたします。※お申込み後7日以上経っても受講券・請求書がお手元に届かない場合は、弊社までご連絡ください。	
氏名	住所	セミナー申し込み後、受講をキャンセルされる場合は、必ず開催日前日から起算して10日前までにご連絡ください。それ以降のご連絡及び、当日欠席の場合、返金はいたしかねますので、代理の方のご出席をお願いいたします。代理の方も出席できない場合は資料の送付で出席に代えていただきます。受講料未入金のまま当日ご欠席されてもキャンセルにはなりません。全額請求させていただきますので予めご了承ください。	
TEL	FAX	支払方法 <input type="checkbox"/> 振込 <input type="checkbox"/> 当日現金 ※銀行振込の場合は振込予定日を記載ください	
E-mail	※申込みに関する連絡に使用するため、E-mailアドレスまたはFAX番号をご記入下さい。		
Eメール案内会員登録(無料) ※E-mailアドレスが必須です。 ※右記に✓印をつけてご登録いただくと、この申込からEメール案内会員価格で申込できます。 ※Eメールでセミナー書籍の最新情報をご案内致します。	Eメール案内(無料)に <input type="checkbox"/> 登録する <input type="checkbox"/> 登録済み		
通信欄		月 日	
■個人情報取り扱い ご記入の個人情報は、商品の発送、事務連絡、ご案内等に使用いたします。			